

# 日本語日本文学科

## ——70年近い歴史に育まれた教育と研究の場——

本学科は昭和 27（1952）年 4 月に国文学科として開設されました。昭和 57（1982）年から国語国文学科に、平成 11（1999）年から日本語日本文学科に名称を変更して現在にいたります。

大学院は、平成 7（1995）年に文学研究科日本語日本文学専攻（修士課程）を開設し、次いで 2 年後に博士後期課程が新設されたのにもない、修士課程は博士前期課程となりました。

本学科には、上代から現代までの日本文学の専門家が所属しており、日本語学の専門家も充実しています。さらに、国語科教育・書道・司書など、関連する幅広い分野の専門家も所属しており、学部から大学院まで、日本語・日本文学を研究・指導する充実した体制となっています。

研究室	教員	授業担当	研究分野
古典文学	東城敏毅	上代文学	奈良時代の文学、特に『万葉集』の研究
	中井賢一	中古文学	平安期を中心とした物語文学の研究
	江草弥由起	中世文学	平安末期から室町時代の文学、特に新古今歌壇の研究
	野澤真樹	近世文学	江戸時代の小説、特に上田秋成の初期の作品
近代文学	山根知子	近代文学	明治・大正の文学研究、宮沢賢治・坪田譲治等の児童文学研究
	長原しのぶ	近現代文学	昭和以降の文学研究、戦争と文学・ポップカルチャーと文学
	山根道公（兼任）	キリスト教文学	遠藤周作・八木重吉を中心とするキリスト教文学
日本語学	尾崎喜光	日本語学	現代日本語の話し言葉を中心とする社会言語学的研究
	星野佳之	日本語学	古代語から現代語までの意味・文法論的研究
言語文化	家入博徳	書道	書道史、文字表記史
	伊木洋	国語科教育	国語科教育の実践理論の研究
	近藤友子	図書館情報学	図書館における障害者サービスの研究

### 2021年度 学科関連情報

## 第 24 回 ノートルダム清心女子大学日本語日本文学会大会

毎年、ノートルダム清心女子大学日本語日本文学会を開催しています。新型コロナウイルスの感染拡大のため、今年度はオンライン開催となりました。大学院生の研究発表、現役の教員による教育実践報告、日本語日本文学に関する講演など、言葉に関する知的な催しです。

なお、本学会の機関誌『清心語文』第 23 号は今年も年度内に刊行の予定です。

## 日本語日本文学科主催 第27回 書道卒業制作展

大学4年間で身に付けた技能・理論を昇華させる最後のステージとして、また、自身の「書」を生涯を賭して極めるためのスタートラインとして、書道卒業制作展を開催しています。本学科で四年間、書を学んだ学生だけが体験できる、学生時代最後を飾る一大イベントです。

- 会 期 2022年2月中旬（予定）  
会 場 ノートルダム清心女子大学 ノートルダムホール1階100ND教室（予定）  
出 品 学生による作品と所感文集の刊行  
（臨書・創作、漢字・仮名・漢字仮名交じりの書・一字書・少字数書・篆刻など）  
賛助出品 書道担当教員（顧問を含む）



※本学ホームページの日本語日本文学科ブログに、長年、書道卒業制作展の指導に携わってきた佐野榮輝特任教授（2019年3月退職）が、「書道卒業制作展をふり返って—継ぐそして繋ぐ—」と題するエッセイを掲載しております。また、「学生の作品紹介 | 第25回（2019年度）書道卒業制作展の出展作品紹介」と題して2019年度卒業制作展の出展作品の一部を紹介しています。併せてご覧ください。

## 地域・社会との連携

### （1）教員による活動

地域・社会に開かれた活動として、本学科教員は、研究の成果をもとに地域・社会の方々に向けた講座や講演を担当しています。各教員の活動をお伝えします。

#### ・伊木 洋（国語科教育）

著書『中学校国語科学習指導の創造—学校図書館と学習者を結んで—』（溪水社 2018）

『新たな時代の学びを創る 中学校高等学校国語科教育研究』（共著 東洋館 2019）

『はじめよう！ブックコミュニケーション 響き合う教室へ』（共著 金子書房 2019）

第54回全国高等学校国語教育研究会研究大会（岡山大会）共同研究者

岡山県立岡山操山中学校高等学校授業力向上のための外部評価委員

岡山市心のふれあい事業「障害者週間」作品コンテスト選考委員

- ・江草 弥由起（中世文学）  
2021年度4月着任 2020年度の地域における活動実績なし
  
- ・尾崎 喜光（日本語学）  
総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業運営委員会委員  
『日本語の乱れか変化かーこれまでの日本語、これからの日本語ー』（共著、ひつじ書房、2021）  
『全国調査による言語行動の方言学』（共著、ひつじ書房、2021）
  
- ・近藤 友子（図書館情報学）  
日本図書館協会 障害者サービス委員会関西委員  
福知山市立図書館 対面読書ボランティア研修会 講師
  
- ・東城 敏毅（上代文学）  
著書『万葉集防人歌群の構造』（和泉書院、2016）  
『阿倍仲麻呂在唐歌論』（おうふう、2018）  
上代文学会理事、美夫君志会理事、山陽新聞カルチャープラザ講師、NHK文化センター高松教室講師、菊池寛記念館文芸講座講師、倉敷市玉野市民交流センター講座講師
  
- ・中井 賢一（中古文学）  
著書『物語展開と人物造型の論理―源氏物語〈二層〉構造論―』（新典社、2017）  
「文学・教育研究会」主催（現在、休止中）
  
- ・長原 しのぶ（近現代文学）  
『太宰治と戦争』（共著、ひつじ書房、2019）  
『遠藤周作事典』（共著、鼎書房、2021）
  
- ・野澤 真樹（近世文学）  
著書『上田秋成研究事典』（共著、笠間書院、2016）  
『和食文芸入門』（共著、臨川書店、2020）
  
- ・星野 佳之（日本語学）  
岡山市「市民の童話賞」小中学生の部選考委員
  
- ・山根 知子（近代文学）  
岡山市文学賞委員（坪田譲治文学賞運営委員）  
2018年4月1日付『毎日新聞』の「この3冊（栗原敦・選）」にて著書『宮沢賢治 妹トシの拓いた道』（朝文社 2003年9月）が掲載される。  
著書『わたしの宮沢賢治一兄と妹と「宇宙意志」一』（ソレイユ出版、2020年2月）

## （2）学生による活動

教員（山根知子）の監修のもと、「岡山市文学賞」のホームページ内に「学生による坪田譲治ワールドへの招待」を掲載し、本学科学生による坪田譲治の作品紹介や研究、坪田譲治の文学作品についての感想・エッセイ・イラストなどを掲載しています。

また、学生の学外活動として、日文の学生有志が「ツボジョーワールド探検隊」という坪田譲治を軸とした活動団体を結成し、岡山市の「学生イノベーションチャレンジ事業」に応募して2017年度から2019年度まで3年連続で採択され、行政や各種地域団体と協働する多くの企画に挑戦しました。この活動の成果に対して、2017年度には岡山市長より「特別賞」を受賞し、また3年連続でノートルダム清心女子大学同窓会奨励賞も受賞しました。